

ソトタマシイ

フランス人アーティストのピエール・ユイグ氏は、**Exomind**（ソトタマシイ）を通じて、人間が作った世界と自然界の相互作用について議論を呼び起こす非常に象徴的な微小宇宙を作り出しました。この作品に登場する生物や無生物はすべて象徴的な意味あるいは珍しい遺伝的特徴を有しています。

ミツバチの生きたコロニーは、神社の境内に生える有名な「飛ぶ」梅の木である飛梅の遺伝子系統からの花に授粉します。一生を通じてオタマジャクシのようなヒレを保持する一対のアホロートル(メキシコのサンショウウオ)が池に生息しています。

中央には蜂の巣箱が頭を覆う女性の彫像があります。ユイグの製造したエコシステムには、睡蓮（モネの池の蓮）、昆虫、三毛猫、オレンジの木もあります。